教育的ニーズに応える普及活用事業

～歴史好きの「種」をまく出前授業～

調査課　山本　厚美

考古学コラム「きずな」NO.19
平成 30 年７月５日
岐阜県文化財保護センター

＜はじめに＞

岐阜県教育委員会が策定し、平成 26 年度から 30 年度にかけて実践に取り組んでいる「第２次岐阜県教育ビジョン」の中には、基本目標 5-(2) として『文化財の保存・活用の推進』という内容が位置付けられています。その中では、取り組むべき主な施策として以下のような内容が示されています。

③文化財の活用の推進
・文化財に関する学習の機会や情報提供を図ることで、県民の文化財に対する理解・関心を深め、文化財保護意識の高揚を図ります。

岐阜県文化財保護センター（以下「当センター」とする。）が事業の４本柱の一つに掲げている「普及活用」事業は、まさに上記の施策に沿ったものであると同時に、学校現場からの教育的ニーズに応える取り組みでもあるといえます。

＜「出前授業」に対する評価＞

当センターでは、平成 29 年度には県内の 94 校（小学校 78 校、中学校 13 校、高校２校、大学１校）において出前授業を実践しました。特に西濃地域、岐阜地域の学校が多くなっていますが、他にも県内各地の学校からの要請を受けて授業を実施しました。

年度	実施校数	継続校	新規校	継続率
H26	47 校	36 校	11 校	100%
H27	54 校	47 校	7 校	100%
H28	60 校	54 校	6 校	100%
H29	94 校	56 校	38 校	93%

（継続率＝継続校／前年度の実施校）

表から分かるとおり、出前授業を実施した学校では、ほとんどの学校で次年度も出前授業を実施していただいています。授業を実施した学校の先生方にアンケートを実施しているのですが、その結果も以下のようになっています。

Ｑ出前授業はよかったですか。→ 良かった（94%）
Ｑ講師の話し方はどうでしたか。→ 良かった（91%）
Ｑ内容は理解できました。→ 理解できた（92%）
Ｑ今後も利用したいですか。→ はい（100%）

以上の結果から、出前授業を実施した学校においては、概ね好評をいただいていると考えていますが、なぜこうした評価をいただけているのでしょうか。

＜出前授業の様子＞

①実物を見て、実物に触れる

県内各所遺跡の発掘調査において出土した遺物を学校に持参し、土器の破片や大きな壺などに触れてもらうようにしています。そして、当センターが実施する出前授業では、児童生徒が手に取って観察する遺物は、レプリカではなくすべて実物です。数千年前の人が実際に使っていた土器を手にする児童生徒の目の輝きは、小学生でも中学生でも高校生でも変わることはありません。

②学校の要望に応える

出前授業を実施する際には、学校の先生から実施時期や授業内容について要望があります。「地元の遺跡から出土した遺物を持ってきてほしい」「教科書に載っている土器を子どもに見せたい」「授業参観で、親さんにも土器に触れてもらいたい」などの要望がありますが、打合せをする中でできる限り応えるような授業の実施に取り組んでいます。社会科の授業だけでなく、ふるさと学習や、体験講座的、ワークショップ的な形態の授業も実践しています。

①②は、当センターの出前授業の大きな「売り」と考えています。学校からのニーズに応えるとともに、児童生徒の学びのニーズにも応える授業の実践は、学校、児童生徒、当センター三者にとって Win-Win-Win となる活動といえます。こうしたことが、多くの学校で評価されている要因と考えます。

＜おわりに＞

当センターのＯＢ職員から、「出前授業のような普及活動は、子どもたちの知的好奇心というニーズに応えるもので、歴史好き・考古学好きの『種』をまく活動である」と言われたことがあります。

出前授業を実施したある学校の校長先生から知らせを受けました。「文化財保護センターの出前授業を受け、その後地元の古墳や遺跡について学んだ児童が『養老町少年の主張大会』でそのことを発表し、最優秀賞を受賞しました。」とのことでした。もしかしたら、出前授業でまいた「種」が実るとはこういうことなのかもしれないと感じ、天にも昇る心地になりました。最後にその発表の一部を紹介します。

『僕は、将来、ふるさとの文化財を守る学芸員になります。そして、ふるさとの歴史や文化を築き上げてきた「ひと」の想いを、未来に伝えていきます。
　この夢をもつきっかけをくれたのは、社会科の歴史の出前授業でした。六年生になったばかりの四月。岐阜県文化財保護センターの学芸員さんがいらして、授業をしてくださいました。二つの土器のかけらを比べて、作られた時代を考えるという内容でした。（中略）
　だから、僕は、ふるさとの文化財を守る学芸員になります。そして、ふるさとの歴史や文化を築き上げてきた「ひと」の想いを受け継ぎ、未来に伝えていきます。（後略）』